



デザインソーラーパネル

Dに直接流しデザインパネルを発光させている。電気を自分で作るため、電気代金や配線工事も不要で、商品を設置するだけで夜間も光る表示板が10万円程度で設置することができる。

現在、販売している商品はエクステリア（外壁）向けの表札や銘板（看板）と昨年開発した自治体向けが中心の避難標識や安全標識の他、LEDライトパネル、LEDボードだ。表札は、表札メーカーやインターネットを通じて販売している。標識は2014年度、自治体向けに22ヶ所の取り付けが完了した。今年度は、400台程度の施工を予定している。

同社は「3年以内にエクステリア事業は年間3000台、標識事業は年間5000台を目標とする。今は、DSPを広く知ってもらうため自治体への広報や展示会に積極的に参加していきたい」と話す。

植松建興

太陽光発電第3比較展示場増設、約150kWシステムでリニューアルオープン

植

松建興（本社・静岡県沼津市、植松孝康社長）は5月1日、静岡県の同本社倉庫屋根に3つ目の太陽光発電の比較展示場を増設し、既存の第1、第2展示場と併せて約150kWシステムの比較展示場としてリニューアルオープンした。太陽光発電の購入を検討する顧客に対して実際の発電から得られたデータを提供すると同時に、同社の行う設置工事を提案することが目的だ。

第1展示場では異なる種類の太陽光パネルを同容量・同条件で設置して、太陽光パネルの種類の比較による発電量の違いを検証し、第2展示場では傾斜ありと傾斜なしの屋根両方に太陽光を設置して、異なる環境での発電量の違いを検証してきた。そして今回増設された第3展示場で



第3比較展示場

は、太陽光パネルメーカー1社に対し、異なる5社のメーカーのパワーコンディショナを接続・設置することで、製品の外観や運転音の比較、変換効率を検証する。また、これまで設置されたパワーコンディショナは屋内設置で定格出力が5.5kWだったが、第3展示場に設置されたパワーコンディショナは全て屋外設置で9.9kW。比較展示に参加したパネルメーカーのレネソラー、パワコンメーカーのSMA、山洋電気、新電元、田淵電機パナソニックは、昨年の12月1日から今年の1月20日までの公募により決定された。

展示場では屋根に登って間近で発電している太陽光パネルを見ることができ、併設された展示室ではリアルタイムで実発電量を比較することができる。

京セラ

ビル向けファストデマンドレスポンスの実証試験開始

京

セラ（山口悟郎社長）は一般社団法人新エネルギー導入促進協議会が公募する「平成26年度次世代エネルギー技術実証事業費補助金」において「ネガワット取引に係るエネルギーマネジメントシステム構築と実証」事業者に採択された。これを受け、同社は2016年の電力小売り全面自由化や2017年に予定されているネガワット市場創設に備え、自動デマンドレスポンス（以下ADR）の実証試験を実施した。ネガワットとは、使われなかったため、節約することが出来る電量のことを指す。

使用量を減らし需給バランスを自動で調整するシステムである。同社からは試験を通して、住宅・マンション向けデマンドレスポンス（以下DR）要請の手順・流れ・制御の確認等を行い、空調制御、蓄電池制御それぞれの削減参考値を算出した。

また、同社は新たな実証試験として今年（2015年）4月から来年（2016年）3月にかけてファストデマンドレスポンスにおける自動システムの有効性とネガワット取引の事業性を検証する予定だ。実証フィールドは、食品スーパーマーケット、ビルなど工場の計12ヶ所としており、①スーパーマーケット等に導入された空調・蓄電池の自動制御システムによるファストデマンドレスポンスとしての価値の実証、②アグリゲータの需要調整技術の確立、③ネガワット取引における運用・作業コストの削減を目的としている。